

## なぜ女子教育を促進するのか

教育を受けることは人間にとって基本的な権利の一つです。それは、男の子だけに与えられるものではなく、同じ人間として、女の子にも等しく与えられています。教育を受ける機会を持つことは、彼ら自身の能力の増大へとつながり、そして、社会への貢献に寄与することになるのです。母親の教育水準が上がると、子どもたちの生活状況は大きく改善し、社会の状況改善につながる事が分かっています。2015年のミレニアム開発目標の達成において厳しい状況であるサハラ以南のアフリカの国々でも、女子教育の促進が社会を改善するための大きな鍵の一つなのです。

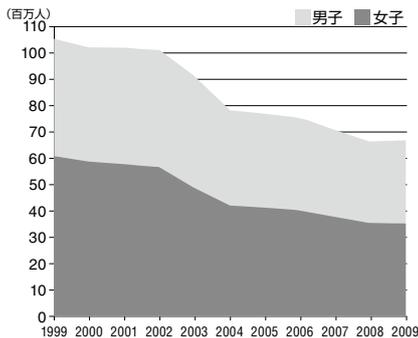


©UNICEF/NYHQ2007-0339/  
Christine Nesbitt

### 女の子が学校へ通えない地域

1999年には1億560万人の子どもたちが小学校へ通えていませんでした。現在、学校へ通えていない子どもの数は、6,100万人となり、約40%減少しました。多くの子どもたちが小学校へ通えるようになりました。男女間格差も1600万人(1999年)から360万人(2009年)まで減少しています(【図表①】参照)。しかし、依然として小学校に通えない女の子の人数は男の子より多い状態です。

【図表①】小学校へ通っていない子どもたちの数



中でも、小学校に通えない女の子の人数が多い地域はサハラ以南のアフリカと南アジアです。全体の約半数をサハラ以南のアフリカが、約4分の1を南アジアが占めています。

小学校へ通えない女の子の数が多い国をみると、特集で取り上げたマララさんがいる国、パキстанは世界第2位で、400万人もの女の子が小学校に通うことができていません。

また、サハラ以南のアフリカでは、第1位のナイジェリアと第4位のエチオピアだけで約600万人おり、サハラ以南のアフリカで女の子が学校に通えない人数の約3分の1を占めています。

【出典】

図表①~③: The edstats Newsletter, the World Bank Education Statistics Newsletter, Vol.V, Issue1, 2011より翻訳、作成

図表④: The lancet, Vol.376, Emmanuela Gaikidou et al., 2010より翻訳、作成

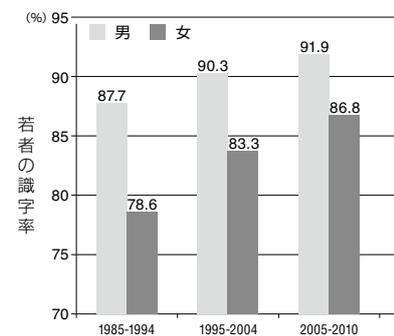
【参考資料】

UNESCO: Key Messages and Data on Girls' and Women's Education and Literacy, April 2012

現在、若者の識字率は【図表②】が示すように順調に伸びています。男女間格差も約5%まで縮まり、格差も少なくなっています。また、女の子の識字率が低い上位10カ国(【図表③】参照)をみても、識字率が50%に満たない国は7カ国のみで、識字率の改善は大幅に進んでいると言えます。しかし、女の子の識字率が低い上位20カ国の内、パキстанを除いた19カ国がサハラ以南のアフリカの国です。

サハラ以南のアフリカは、ユニセフの支援の基準の一つとなる5歳未満児の死亡率が最も高く、一番厳しい状況にある地域ですが、女子教育に関しても一番厳しい状況におかれているのです。

【図表②】若者の識字率における男女の割合



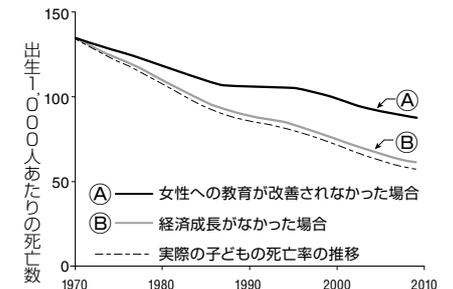
【図表③】若い女子の識字率が低い国 上位10ヶ国

順位	国名	%
1	ニジェール	23.2
2	マリ	30.8
3	ブルキナファソ	33.1
4	エチオピア	33.3
5	チャド	39.0
6	ベナン	43.4
7	シエラレオネ	48.1
8	ギニア	53.8
9	セネガル	56.2
10	中央アフリカ共和国	57.3

### 女子教育がもたらすもの

【図表④】は以下の条件で、1000人あたりの子どもの死亡数がどのように変化するかを示したものです。点線は2010年における実際の子どもの死亡率を示しています。ライン④は、女の子への教育率が低い場合の子どもの死亡率を示しています。ライン③は経済成長がなかった場合の子どもの死亡率を示しています。図を見ると、ライン④が点線より突出して間隔が大きくなっているのが分かります。いかに女子教育が子どもの死亡率に大きな影響をもたらしているか分かります。

【図表④】子どもの死亡率の推移



女子教育は様々な効果をもたらすことが報告されています。教育を受けた女の子は婚期を遅らせ、子どもを計画的に授かることを学び、その結果爆発的な人口増加を食い止めることができます。世界銀行によると、女の子が教育を受ける年が1年増えれば、出生率が10%減るとい報告があります。マリでは、中等教育以上を受けた女性は平均3人の子どものもち、教育を受けてない女性は平均7人の子どものいるという統計がでています。また、中等教育を受けた女の子は、母乳によって子どもがHIVに感染することや、妊娠中に処置を受けることで、母子感染の危険性が少なくなることを知り、結果HIV/エイズの罹患率が減ることが分かっています。ユネスコによると中等教育以上を受けた母親から生まれた子どもは、そうでない子どもに比べ、5歳未満で亡くなる率が半分になるとい報告がされています。ブルキナファソでは保健センターで出産をする割合がおおよそ2倍高くなりました。サハラ以南のアフリカでは、もし母親が中等教育を受けていたら、2008年には180万人の子どもの命を助けることができただろうといわれています。このようにサハラ以南のアフリカにおける女子教育の促進に全力を尽くすことがいかに重要であるかが分かります。